学　校　便　り　　琢磨

令和６年度　第 23 号　R7.3.3 三豊市立詫間小学校

詫間っ子が大活躍した学習発表会

２月 21 日（金）。令和６年度の学習発表会が体育館で開催されました。児童会代表の開会の言葉で始まり、和太鼓クラブの演奏を皮切りに、１年生、２年生、３年生、鼓笛クラブ、４年生、５年生、６年生と発表が続きました。体育館には、詫間小の子どもたちは入っていませんでしたが、保護者やご家族の皆様で会場は熱気にあふれていました。少し緊張した様子は見られたものの、そこは、本番に強い詫間っ子です。どのクラブも、どの学年も、これまでで最高の発表ができたと思います。

学習発表会の最後は、６年生の合唱、そして、児童会代表の閉会の言葉で、立派な締めくくりができました。４年生のある子が、「２年後、あんな６年生になりたい。」と、学習発表会を振り返っての感想を書いたそうです。心地良い風が、学校に吹いていることを感じることができました。

６年生を送る会

それまでの寒波から一転、本格的な春の訪れを感じる２月 27 日（木）。５年生の新児童会役員さんが中心となり「６年生を送る会」が開催されました。

まずは、各クラスで「６年生とのふれあい活動」です。本校は、６年生が 12 グループに分かれて、１～５年生の 12 クラスを５分間ずつ回っていくというものです。わずか５分間で、６年生とのふれあいを楽しむために、各クラス、「じゃんけん大会」、「手作りおもちゃ」、「ジェスチャーゲーム」など、工夫を凝らし役割分担をしていました。６年生も１～５年生も、笑顔いっぱいの楽しいふれあい活動でした。

後半は、全校児童が、体育館に集まりました。ふれあい活動でプレゼントされた紙の花などを頭や服につけてアーチをくぐり入場してくる６年生もいました。１～５年生が、サプライズで校歌を合唱すると、６年生は、一緒に歌ったり、友達と肩を組んでリズムをとったりしていました。

素晴らしい「６年生を送る会」でした。「日本一の６年生を送る会」だと感じました。

私の勤務した学校　その７（最終回：私の思い出の回想にお付き合いくださり感謝します。）

（三豊市立比地小学校　平成 28 年４月～平成 30 年３月）

３年間、高松市にある香川県教育委員会義務教育課という教育行政の部署で勤めた後、新米の校長として赴任したのが、三豊市立比地小学校でした。偶然にも、詫間小６年松組担任の宗田先生と一緒に、比地小学校に赴任したのです。ついこの前のように思っていましたが、９年も前のことになるのですね。

ところで、「校長」という仕事について、子どもたちからよく質問されます。「校長先生のお仕事ってどんなことをするのですか？」と。校長になった１年目は、上手く説明できませんでした。私が子どもの頃の校長の仕事のイメージとしては、賞状を渡したり、全校生に話をしたりすることくらいしかありませんでした。教員となってみて、いろいろな事が分かってきましたが、それでも、その立場になってみないと分からないことは多いものです。今、同じ質問をされたらこう答えることにしています。「いろいろな事を決めて、その責任を取るお仕事です。」と。きっと子どもたちには、抽象的過ぎて分からないと思います。具体的に言えば、学級の担任を決める、教職員が担う仕事を決める、子どものクラスを決める、学校の方針を決める…。つまり、学校の決め事に関しては全て校長が決めて、決めた限りは責任を負うということです。責任を負うというのは、「申し訳ありませんでした。」と謝罪したり校長を辞めたりすることだけではなく、問題が解決するように教員に指示・指導したり、関係機関と連絡を取ったりすることも含まれます。もちろん、何から何まで校長一人でできるわけがありませんので、それは、教頭や他の教職員がそれぞれ分担して案を出し、それを校長が判断して、決定したり修正を指示したりするわけです。ごく身近なことで言いますと、毎月の「学年だより」は、その学年の教員が作成します。それを、教務主任というリーダーが見て修正を加え、それを教頭２人が見てさらに修正を加え、その修正されたところも含め校長が確認し、学年便りが発行されるのです。もし、その内容にミスがあったら、責任は校長にありますから、校長が、その間違いについてどう対応するのかを決め、例えば、印刷し直して配り直すとか、メールで修正してお詫びするとかといったことを行うよう指示するのです。それと、お客様に応対するといったお仕事も結構あります。その中で、対外的な事を決めなければいけない場面もあります。また、警報が出たので早く下校させるかどうかとか、雨が降っているので行事を中止するかしないかとか、感染症が流行したので学級閉鎖や学年閉鎖にするのか等、本当に決定することは山ほどあり、そんなに簡単にできる仕事ではありません。「よきに計らえ！」なんてことは、絶対にありません。

私が、比地小学校の校長として結構思い切った決断は「学校教育目標」を「胸を躍らせ　胸を張れ！」に変えたことでした。教育目標は、「知・徳・体」からキーワードを決めて組み合わせたもの、例えば「自ら問題を見つけ、粘り強く努力し、強靭な精神と肉体を育む」なんて難しい言葉が並んでいることが多いです。それを、一番大切なことに絞り、子どもの姿で、誰でも覚えられる簡単な言葉にしたのです。これは、詫間小学校の「合言葉：３月に私の学校は日本一だと思うこと」にも通じます。当時の比地小の子どもたちは、全員が学校教育目標を知っていましたし、今の詫間小の子どもたちも、学校の１年間の目標をみんな知っているのですから。

決めることではありませんが「昼休み芸能・自慢大会」も始めました。この前の独り言に書きましたが、詫間小で始めたことをどうしてもやりたくて、比地小でも私が始めました。焼き芋大会もしました。まだあります。環境整備です。比地小の２年間は、とにかくいろいろな物を作り、修理しました。廃材で子どもたちが遊ぶ秘密基地のような物も作りました。古い靴箱をカラフルになるようペンキを塗りました。剪定、草抜きもしました。詫間小にもある両面から読むことができる「小学生新聞の掲示板」も、比地小の時に考えて作りました。

ところが、まだまだ、これからという時、また、香川県教育センターという教育行政の部署の所長として転勤することになったのです。平成 30 年４月のことです。比地小が名残惜しくて、転勤して数か月の間、比地小の前を通ることも辛くて、敢えて避けて違う道を通ったことを覚えています。それから２年経って、帰ってきたのが私の最後の勤務校となる、ここ詫間小学校なのです。